



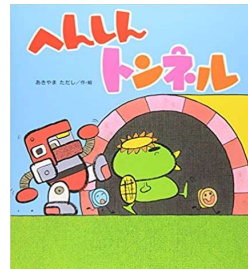
新型コロナウイルスの感染が再拡大しています。  
ハッピーテラスでは、引き続き感染対策に十分に努めて参ります。

## 1 お知らせ

- 8月8日(月) 10日(水) スーパーボール作りイベントを開催します。  
時間や空き状況については、スタッフにお問い合わせください!
- 8月3日(水)より ご利用者様アンケートを開始します。  
お忙しい中かと存じますが、ご回答のほどよろしく願いいたします。
- 感染症への不安や濃厚接触の疑いの為、ご利用が出来ないご家庭の皆様へ  
ご家庭でもできるトレーニングの提案をさせていただきます。  
ぜひ、ご活用ください(オンラインや教材提供1回につき、1日分の実績を算定します。)

## 2 職員からの推薦図書

題名 「へんしんトンネル」  
著者名 秋山 匡  
参考価格 1350円 (Amazon)  
推薦者 宮下 丈 (我孫子教室)



このトンネルをくぐると、なぜかいろいろなものがへんかしちゃうんです。かっぱやロボットがトンネルをくぐると…いったいなんにへんしんしちゃうのか!?最後まで目が離せません!

## 3 8月の追加ご利用可能日程

各教室において、追加でご利用される場合にご参考ください。  
(記号：○・・・空きがございました △・・・若干名の空きがございました)

日付	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
曜日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月
10:00							X	△	△		X		X	X	X
11:15				△		△	X				X		X	X	X
13:00			△	△	○		X	△			X	△	X	X	X
15:00			△			○	X	○			X	○	X	X	X
16:15			△	△			X			△	X		X	X	X

日付	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
曜日	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水
10:00			△			X	△	△				X		△		
11:15			△			X				○	△		X			
13:00		○	△			X	○		△	○			X	○		△
15:00		○				X	△		△	△			X	△		○
16:15		○				X					○		X	△		

#### 4 おうちでキッズコーディネーション!

～めざせ!おたにくん～ 難易度★★★★☆

ねらい

- ・すばやく正しく反応する
- ・周りや人のものと、自分の位置の関係をつかむ
- ・手先や足先、道具を使いこなす

準備物

- ・新聞紙や段ボール、ラップの芯などで40～50cm程度の筒状の棒(バット)
- ・ハンカチやスカーフなど、あまり重量のない布を丸めて球(ボール)を作る

☆子どもは保護者に対してまっすぐ向かって立ってしまいがちなので、足を置く場所にテープを貼るなどして、目印を付けてあげてください。

進め方

① 子どもは保護者に90度の角度で向かい合い、バットを持って構え、保護者が投げた球を打ち返します。

☆ 子どもは保護者に対してまっすぐ向かって立ってしまいがちなので、足を置く場所にテープを貼るなどして、目印を付けてあげてください。

※幼児の場合は、ボールの代わりに風船を使います。  
子どもが構えたバットをめがけて、風船を軽くなげて、打ち返しやすくしてあげましょう。

動画のQRコードはこちら!

YouTubeに参考動画をあげています。ぜひご活用ください。

本トレーニング動画は、YouTubeにてHappyテラスのご利用者様に対し、限定公開されたものです。Happyテラスのご利用者様以外の方にURLをお知らせされないようお願いいたします。



## 5 療育コラム 「応用行動分析 (ABA) の考え方③」

今回も前回は引き続き、具体的な介入の仕方について、御伝えしていきます。

前回は、課題分析をする事の意義についてのお話しましたが、今回は (良くない) 行動の消失をする方法についてご紹介していきます。

まず初めに、ある行動が継続される理由としては、大きく分けて以下の2つがあります。

- ①行動の結果、好子が出現
- ②行動の結果、嫌子が消失

概ね、このどちらかに大別されます。主に①のパターンについて御伝えしていきます。

行動の結果、その人にとって、良い事が起こっている、いわゆる【好子出現の強化】が、行われている状態の場合、まず、何がその人にとって好子となっているのかを考えていく必要があります。

この場合、単純に、行動する事で得になっている状態なのですが、ここでのポイントは、人によって何が好子になっているのかは分からない、という事です。これを分かり易く説明するために、以下に1つ例を挙げてみます。

### 【事例】

親と一緒に遊んでほしい子どもがいました。

その子は「お父さん (お母さん)、一緒に遊ぼう?」と声を掛けました。

お父さん (お母さん) は「今、忙しいから一緒に遊んであげられない、一人で遊んでて」

と、声を掛けて仕事や家事を継続しています。

すると、子どもの方で大きな音がします。見ると、子どもが積み上げていた積み木を倒しています。

親はたまたま「何でそんなことするの!」と大きな声を掛けます。

いかがでしょうか?

実は、上の短い事例の中にも、子どもによっては、好子になり得る親の反応が含まれています。

答えは【親からの叱責という形での注目】という反応です。結果として、叱責を受けているのに好子と言えるのか、と感じられる方も多いかと思われそうですが、それはあくまで一つの視点からの捉え方であり、叱責を受けるという一般的にはマイナスイメージのある反応とは言え、それまで、ほとんど向いていなかった親からの注目が得られた、という事は、子どもにとっては十分に好子になり得るものです。

さて、こうなってくると、なかなか大変です。親としては、叱責をする、という嫌子を提示していたつもりが、子どもにとっては嫌子どころか好子の提示を受けていた、という事になるからです。この状態が続いていくと、何かしら悪い事をすれば、叱責という形ではあるが、親の注目を得られる、という、俗に言う誤学習が進んでしまう事となります。

では、そうならないために具体的にどうすれば良いのでしょうか?

具体的な対応の1つとして、好子を提示しない、というものが挙げられます。つまり、何かしても一切の反応を返さない、という対応です。この対応は何を狙っているのかと言うと、行動の消去を狙っています。一切の反応が得られない事は、【好子消失の弱化】にあたるため、この対応を徹底・継続していくといずれは行動が起こらなくなると考えられます。しかしながら消去の前には、どんな行動であっても【消去バースト】というものが起こります。

【消去バースト】とは、消去の前に一時的に、問題とされる行動が、一層激しくなる事を指します。

そのため、行動変容の【消去】を行う際は、対応者の側の、何があっても反応をしない、という確固たる意志が必要とされます。

もし、仮に、途中で少しだけ…と反応をしてしまおうものなら、最初からやり直します。そのため、成功すれば効果は絶大ですが、成功させる事が難しい、というハイリスクハイリターンな対応と言えます。

次回も引き続き、応用行動分析の考え方に伴った具体的な支援の方法について、お話をしていきたいと思っております。